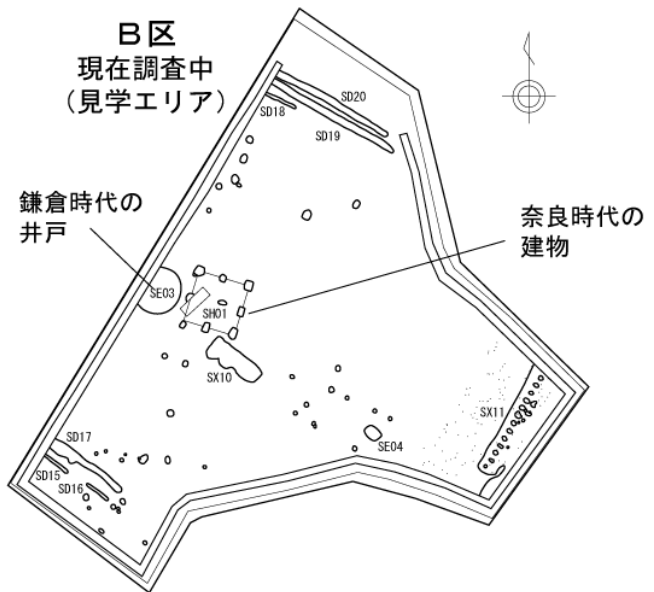


宮竹野際遺跡現地説明会資料

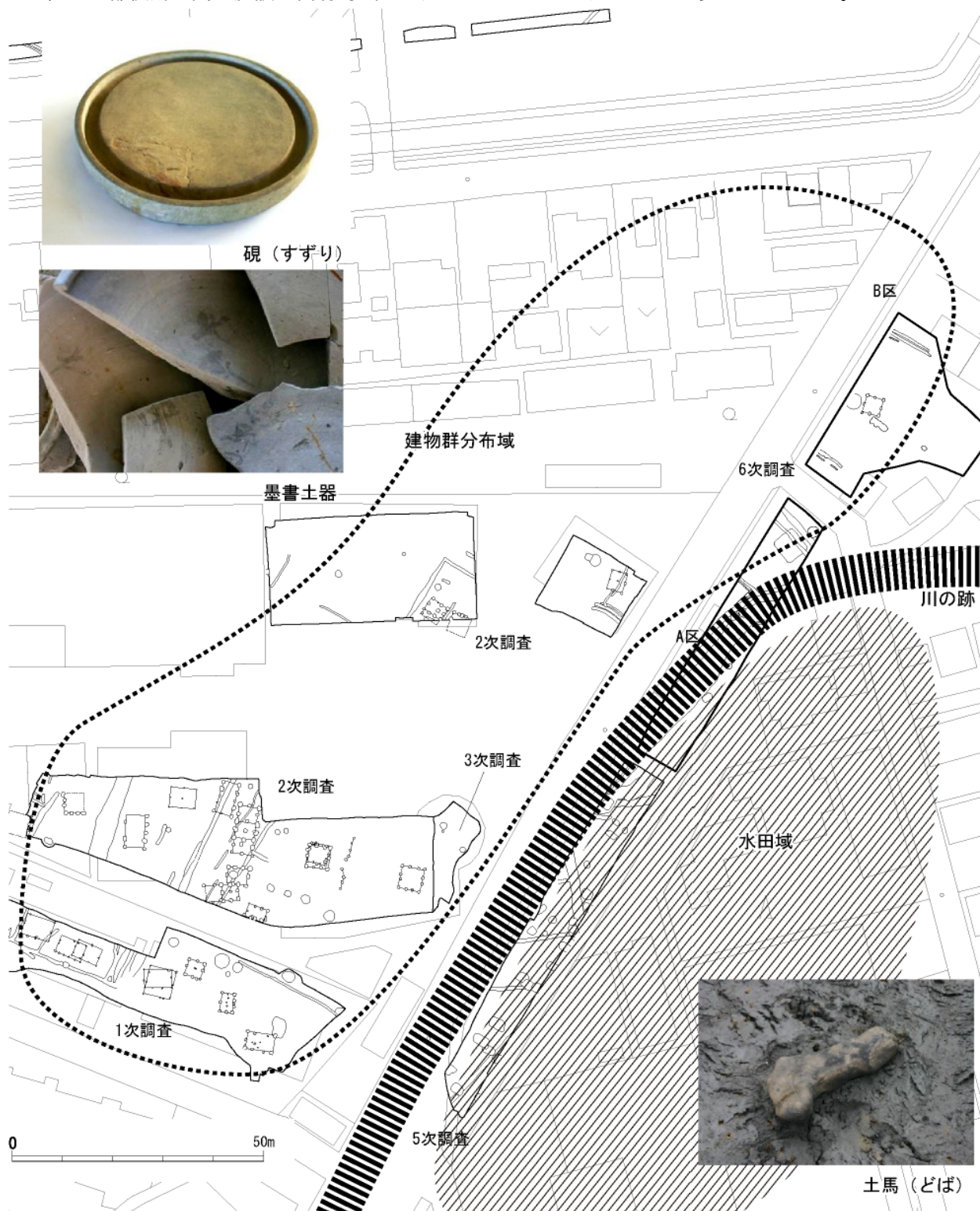


2010年12月19日

浜松市文化財課・(財)浜松市文化振興財団

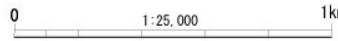
宮竹野際遺跡では、地面に穴を掘って柱を立てた建物（掘立柱建物、ほったてばしらたてもの）が数多く確認できています。これらの建物は、方位や大きさに共通性がみられることから、計画的に配置された経緯が推定できます。建物群の東南方向には、自然の川が流れており、そこからは、数多くの遺物が出土しました。川からの出土品には、墨書土器や硯といった奈良時代から平安時代の役人が使ったと考えられる文字関係資料が数多く含まれます。

こうした特長は、この地に古代の役所があったことを物語ります。宮竹の地にあった施設としては、長上郡（709年以前は長田郡）の役所（長上郡家）が候補としてあげられます。長上郡役所の中心地は、調査地から南に1kmほど離れた和田町の大蒲村東遺跡や木船廃寺跡の近辺と考えられますが、今回の調査によって、この郡役所の関連施設が宮竹町域まで広がっていたと想定できるようになりました。



大蒲倉春舟十束夏月四束

大蒲村東遺跡出土木簡

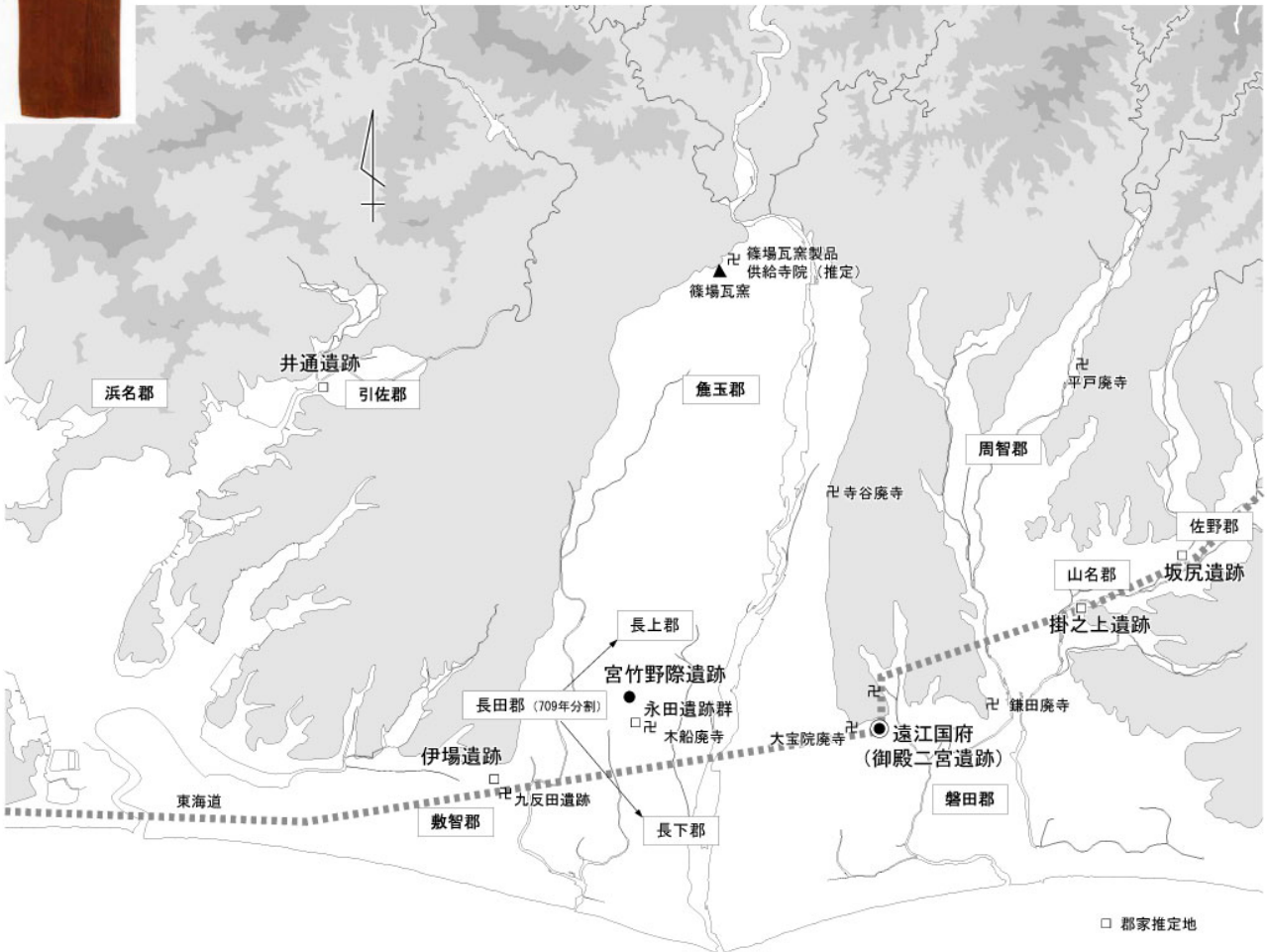


永田遺跡群の詳細

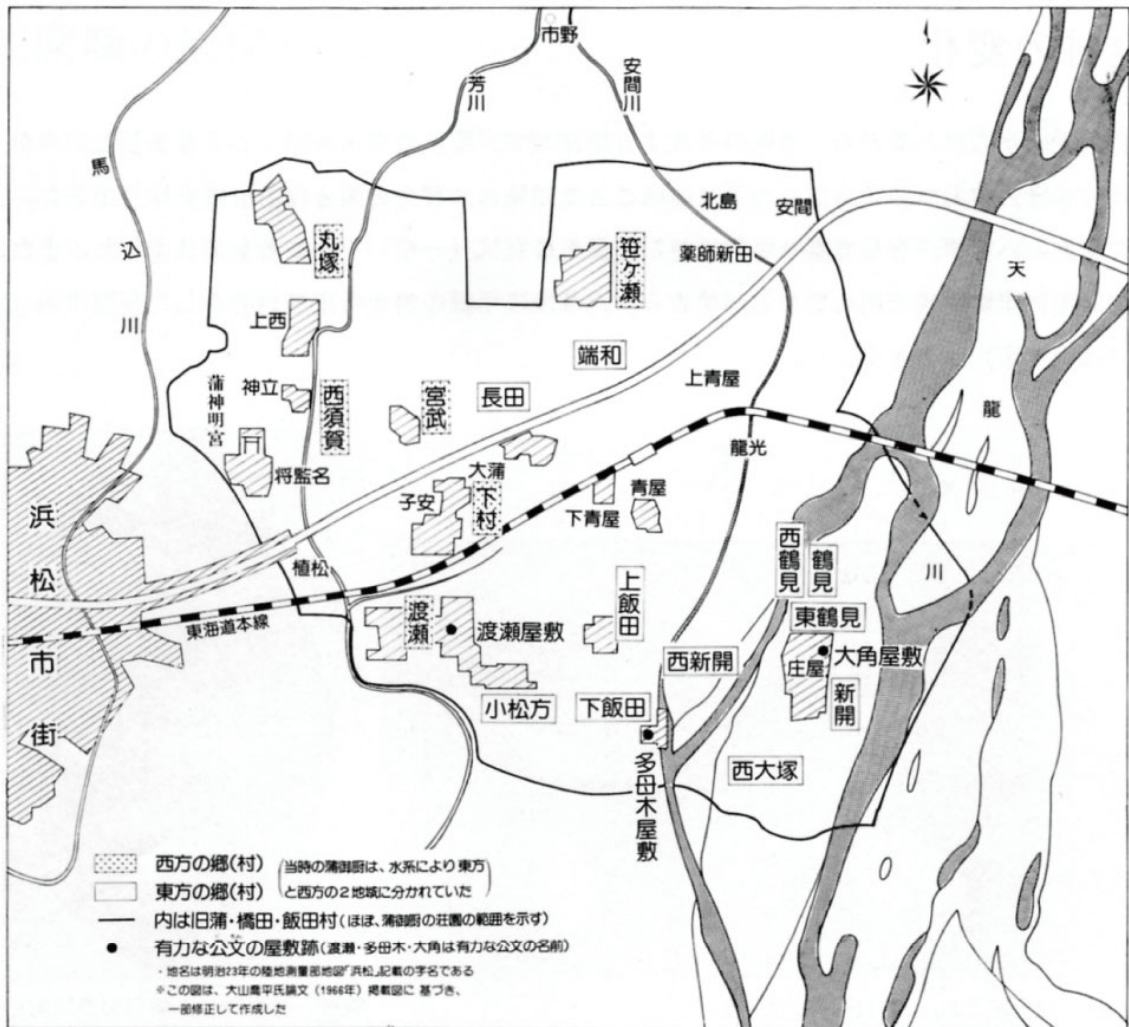


木船廃寺跡出土土瓦

大蒲村東遺跡や木船廃寺といった古代の重要遺跡が近隣に集中しています。宮竹野際遺跡を含め、ここでは永田遺跡群と総称しておきます。



西遠江を中心とした古代遺跡の位置



蒲御厨の範囲



鎌倉時代の井戸



青白磁合子出土状態

平安時代の終わり頃から室町時代にかけて、現在の蒲地区、和田地区、飯田地区を中心とした地域には、蒲御厨（かばのみくりや）と呼ばれる神宮領の荘園がありました。平安時代、この地に勢力を誇った蒲氏は、開発した土地を伊勢内宮に献上（寄進）し、自らは荘官となって御厨を経営します。15世紀頃の記録では、蒲御厨内に、公文（支配者層）、平百姓（一般農民）、下人（隷属農民）といった階層差があったと伝えられています。

宮竹野際遺跡においても鎌倉時代の遺構や出土品が多く認められ、蒲御厨内の集落があったことが分かります。鎌倉時代の出土品の中には、貴重品であった中国産の青白磁合子（ごうす、フタ付の容器）が含まれることをみると、有力な人物も近くに住んでいたとみてよさそうです。